

違いを学び、絵を鑑賞し、画家のメッセージを受け取り、歴史を知り、王族の生活を垣間見る…。日本では知ることのなかったであろう色々なことを学ぶことができました。

総じて今回のリサーチセミナーでは、実習で学んだ実験手技だけではなく、ドイツの医学生との自立ぶりやPHD学生のレベルの高さ、そしてヨーロッパの文化など様々なことを学ぶことができました。私の人生の宝物ともいえる非常に貴重な体験となりました。

海外リサーチ ベラルーシでの 実習を終えて

4年 迎 祐太

2011年1月。正直、行くことになる前は地図上の位置もわからない国だった。ベラルーシという国は東ヨーロッパに位置し、東にロシア、南にウクライナ、西にポーランド、北西にリトアニア、ラトビアと国境を接し、周りに海がない。1991年にソ連から独立、首都はミンスク、人口は970万ほどで、公用語はロシア語に似たベラルーシ語とロシア語だが、ほとんどの人がロシア語を用いる。また、1986年4月26日、現在のウクライナにあるチェルノブイリ原子力発電所における事故により多大な被害を受けた地域としても知られている。

示された国の中で、おそらく日本では最もなじみの薄いであろうこの国がどのようか単純に知りたいと思ったからだった。



▶学生とのホームパーティー

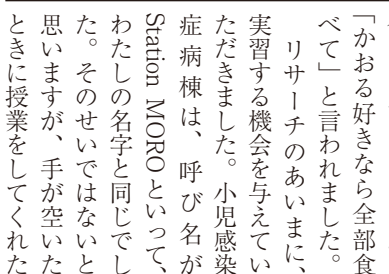


▶婦人科病棟にて記念撮影

今回私が実習先にこの国を希望した理由は、長崎県出身で原爆に関する教育を幼い頃から受けたため、チェルノブイリ原発事故により同じ放射線による被害を受けたベラルーシに興味を持ったというところもあるが、海外でのリサーチ先として提

示された国の中で、おそらく日本では最もなじみの薄いであろうこの国がどのようか単純に知りたいと思ったからだった。

ベラルーシでの研修は病院実習が主で、内科、腫瘍学、小児科、婦人科など様々な科を見学させて頂いた。腫瘍の摘出や血管造影、CT、MRIなど、ちょうど講義が基礎系の内容から臨床系のものに変わったばかりの学年である我々にとって、このようなまだまだあまり見ない機会のない診察や手術を見学することはとても印象的であり、これから学ぶ科目や実習への興味、関心がさらに深まった。また、講義にも参加させ



ベラルーシの学生は学ぶ意欲がとても高い。通訳をしてくれた学生たちも私たちより下の学年であったにもかかわらず、英語が堪能であり、様々な医学用語を知っており、自分たちの知識の少なさを痛感し、もっと勉強しなくてはならないという気持ちになった。医学に関する意欲のみならず、様々な趣味や関心をもっていたこともよい刺激となり、私もこれからは様々なことに挑戦しようと思っている。さらに、休日や実習が終わった後には、観光に連れて行ってくれたり、ホームパーティーを開いてくれたりと様々な計画を立ててく



最後にになりましたが、このような機会を与えてくださった小澤先生、ライナー先生をはじめ、素晴らしいホスピタリティでむかえてくれたベラルーシの先生方、友人たち、アドバイスを下さった楠本さん、先輩方、そして支えてくれた家族と友人に、感謝を伝えたいと思います。



平日はリサーチや実習で忙しかったのですが、週末は友人に車で連れて行ってもらったり、自分たちで計画を立てて列車で行ったりと、日帰り旅行を楽しみました。初め

れた。アイスホッケー観戦やスノーボード、バレエ鑑賞など長崎ではなかなかできないことをしたり、名産のウォッカを飲みながら語ったりなど日々を全く無駄にすることなく、約1ヶ月間の滞在を楽しく過ごすことができた。

おけるリサーチセミナーを通じて、日本とは全く異なる文化や言語、考え方に触れることで様々なことを学ぶことができ、充実した研修に本当に満足している。なかなか行く機会のない国だが、将来ロシア語を勉強して、再びベラルーシを訪れた

最後になりましたが、ベラルーシで学ぶチャンスを与えて頂いた先生方、研修中支えてくれた友人たちに大変感謝しています。ありがとうございました。

今回の留学の目的は、3年後期のリサーチセミナーでベラルーシのベラルーシ大学病院に「Institut für Hygiene und Mikrobiologie」で行うことでした。わたしは与えられたテーマは、髄膜炎菌の遺伝子の「Correia element」という箇所についてです。PCRを繰り返す毎日でした。ラボのスタッフはみな親切で、右も左もわからないわたしに基礎の基礎から根気強く教えてくれました。ラボに中国出身のドクターがいて、月餅を食べる春節をお祝いしたことが印象に残っています。月餅はドイツ人の味覚にはあまり合わなかったようで、「かおる好きなら全部食べて」と言われました。

リサーチのあいまに、実習する機会を与えていただきました。小児感染症病棟は、呼び名がStation MOROとあって、わたしの名字と同じでした。そのせいではないと思いますが、手が空いたときに授業をしてくれた

りと、とてもよく面倒を見ていただきました。日本ではあまり見かけない嚢胞性線維症や、ライム病、髄膜炎菌髄膜炎の子供が入院しているのを見ました。が、やはり肺炎の子供が多かったです。核医学でも実習をすることができました。ベラルーシ大学病院にはサイクロトロンがあり、PETでつかうFDGやヨード124などを作ることもできます。サイクロトロンの見学もさせていただきました。放射性物質を扱うために、厳重に管理されていて、わたしはなかなか入っていいものかとドキドキでした。臨床以外に、研究目的でもつかわれているようで、採血もしました。日本では看護師の仕事ですが、ドイツでは学生か、医師の仕事だそうです。たくさん失敗しましたが、先生は、「採血は経験がすべてだ。日本でもできるだけ経験を積み重ねてほしい。」と励ましてくれました。

平日はリサーチや実習で忙しかったのですが、週末は友人に車で連れて行ってもらったり、自分たちで計画を立てて列車で行ったりと、日帰り旅行を楽しみました。初め

てクロスカントリースキーをしたローン、クリスマスマーケットで有名なニュルンベルク、日本人観光客の歴史を感じたローテンブルグ、住みやすそうな都市ミュンヘン、世界遺産にも登録された歴史ある美しいバンベルグ：真冬だったため、とても寒く、天気が良いこともめったになかったのですが、どの街もそれぞれにとても美しく、印象に残っています。

今回の留学で、シールトから続くドイツと日本の交流の一部となったと思うと、感慨深く、歴史の重みを感じます。先日から続いている、東日本大震災のことも、ベラルーシから心配してくれて、こういう個人間の関係が、国際的な支援につながるっていくのかも想像しれないな、と考えました。

最後にになりましたが、このような機会を与えてくださった小澤先生、ライナー先生をはじめ、素晴らしいホスピタリティでむかえてくれたベラルーシの先生方、友人たち、アドバイスを下さった楠本さん、先輩方、そして支えてくれた家族と友人に、感謝を伝えたいと思います。

今回の留学の目的は、3年後期のリサーチセミナーでベラルーシのベラルーシ大学病院に「Institut für Hygiene und Mikrobiologie」で行うことでした。わたしは与えられたテーマは、髄膜炎菌の遺伝子の「Correia element」という箇所についてです。PCRを繰り返す毎日でした。ラボのスタッフはみな親切で、右も左もわからないわたしに基礎の基礎から根気強く教えてくれました。ラボに中国出身のドクターがいて、月餅を食べる春節をお祝いしたことが印象に残っています。月餅はドイツ人の味覚にはあまり合わなかったようで、「かおる好きなら全部食べて」と言われました。

リサーチのあいまに、実習する機会を与えていただきました。小児感染症病棟は、呼び名がStation MOROとあって、わたしの名字と同じでした。そのせいではないと思いますが、手が空いたときに授業をしてくれた

りと、とてもよく面倒を見ていただきました。日本ではあまり見かけない嚢胞性線維症や、ライム病、髄膜炎菌髄膜炎の子供が入院しているのを見ました。が、やはり肺炎の子供が多かったです。核医学でも実習をすることができました。ベラルーシ大学病院にはサイクロトロンがあり、PETでつかうFDGやヨード124などを作ることもできます。サイクロトロンの見学もさせていただきました。放射性物質を扱うために、厳重に管理されていて、わたしはなかなか入っていいものかとドキドキでした。臨床以外に、研究目的でもつかわれているようで、採血もしました。日本では看護師の仕事ですが、ドイツでは学生か、医師の仕事だそうです。たくさん失敗しましたが、先生は、「採血は経験がすべてだ。日本でもできるだけ経験を積み重ねてほしい。」と励ましてくれました。

平日はリサーチや実習で忙しかったのですが、週末は友人に車で連れて行ってもらったり、自分たちで計画を立てて列車で行ったりと、日帰り旅行を楽しみました。初め

てクロスカントリースキーをしたローン、クリスマスマーケットで有名なニュルンベルク、日本人観光客の歴史を感じたローテンブルグ、住みやすそうな都市ミュンヘン、世界遺産にも登録された歴史ある美しいバンベルグ：真冬だったため、とても寒く、天気が良いこともめったになかったのですが、どの街もそれぞれにとても美しく、印象に残っています。

今回の留学で、シールトから続くドイツと日本の交流の一部となったと思うと、感慨深く、歴史の重みを感じます。先日から続いている、東日本大震災のことも、ベラルーシから心配してくれて、こういう個人間の関係が、国際的な支援につながるっていくのかも想像しれないな、と考えました。

最後にになりましたが、このような機会を与えてくださった小澤先生、ライナー先生をはじめ、素晴らしいホスピタリティでむかえてくれたベラルーシの先生方、友人たち、アドバイスを下さった楠本さん、先輩方、そして支えてくれた家族と友人に、感謝を伝えたいと思います。

今回の留学の目的は、3年後期のリサーチセミナーでベラルーシのベラルーシ大学病院に「Institut für Hygiene und Mikrobiologie」で行うことでした。わたしは与えられたテーマは、髄膜炎菌の遺伝子の「Correia element」という箇所についてです。PCRを繰り返す毎日でした。ラボのスタッフはみな親切で、右も左もわからないわたしに基礎の基礎から根気強く教えてくれました。ラボに中国出身のドクターがいて、月餅を食べる春節をお祝いしたことが印象に残っています。月餅はドイツ人の味覚にはあまり合わなかったようで、「かおる好きなら全部食べて」と言われました。

最後にになりましたが、このような機会を与えてくださった小澤先生、ライナー先生をはじめ、素晴らしいホスピタリティでむかえてくれたベラルーシの先生方、友人たち、アドバイスを下さった楠本さん、先輩方、そして支えてくれた家族と友人に、感謝を伝えたいと思います。

今回の留学の目的は、3年後期のリサーチセミナーでベラルーシのベラルーシ大学病院に「Institut für Hygiene und Mikrobiologie」で行うことでした。わたしは与えられたテーマは、髄膜炎菌の遺伝子の「Correia element」という箇所についてです。PCRを繰り返す毎日でした。ラボのスタッフはみな親切で、右も左もわからないわたしに基礎の基礎から根気強く教えてくれました。ラボに中国出身のドクターがいて、月餅を食べる春節をお祝いしたことが印象に残っています。月餅はドイツ人の味覚にはあまり合わなかったようで、「かおる好きなら全部食べて」と言われました。

リサーチのあいまに、実習する機会を与えていただきました。小児感染症病棟は、呼び名がStation MOROとあって、わたしの名字と同じでした。そのせいではないと思いますが、手が空いたときに授業をしてくれた

りと、とてもよく面倒を見ていただきました。日本ではあまり見かけない嚢胞性線維症や、ライム病、髄膜炎菌髄膜炎の子供が入院しているのを見ました。が、やはり肺炎の子供が多かったです。核医学でも実習をすることができました。ベラルーシ大学病院にはサイクロトロンがあり、PETでつかうFDGやヨード124などを作ることもできます。サイクロトロンの見学もさせていただきました。放射性物質を扱うために、厳重に管理されていて、わたしはなかなか入っていいものかとドキドキでした。臨床以外に、研究目的でもつかわれているようで、採血もしました。日本では看護師の仕事ですが、ドイツでは学生か、医師の仕事だそうです。たくさん失敗しましたが、先生は、「採血は経験がすべてだ。日本でもできるだけ経験を積み重ねてほしい。」と励ましてくれました。

平日はリサーチや実習で忙しかったのですが、週末は友人に車で連れて行ってもらったり、自分たちで計画を立てて列車で行ったりと、日帰り旅行を楽しみました。初め

てクロスカントリースキーをしたローン、クリスマスマーケットで有名なニュルンベルク、日本人観光客の歴史を感じたローテンブルグ、住みやすそうな都市ミュンヘン、世界遺産にも登録された歴史ある美しいバンベルグ：真冬だったため、とても寒く、天気が良いこともめったになかったのですが、どの街もそれぞれにとても美しく、印象に残っています。

今回の留学で、シールトから続くドイツと日本の交流の一部となったと思うと、感慨深く、歴史の重みを感じます。先日から続いている、東日本大震災のことも、ベラルーシから心配してくれて、こういう個人間の関係が、国際的な支援につながるっていくのかも想像しれないな、と考えました。

最後にになりましたが、このような機会を与えてくださった小澤先生、ライナー先生をはじめ、素晴らしいホスピタリティでむかえてくれたベラルーシの先生方、友人たち、アドバイスを下さった楠本さん、先輩方、そして支えてくれた家族と友人に、感謝を伝えたいと思います。

今回の留学の目的は、3年後期のリサーチセミナーでベラルーシのベラルーシ大学病院に「Institut für Hygiene und Mikrobiologie」で行うことでした。わたしは与えられたテーマは、髄膜炎菌の遺伝子の「Correia element」という箇所についてです。PCRを繰り返す毎日でした。ラボのスタッフはみな親切で、右も左もわからないわたしに基礎の基礎から根気強く教えてくれました。ラボに中国出身のドクターがいて、月餅を食べる春節をお祝いしたことが印象に残っています。月餅はドイツ人の味覚にはあまり合わなかったようで、「かおる好きなら全部食べて」と言われました。

最後にになりましたが、このような機会を与えてくださった小澤先生、ライナー先生をはじめ、素晴らしいホスピタリティでむかえてくれたベラルーシの先生方、友人たち、アドバイスを下さった楠本さん、先輩方、そして支えてくれた家族と友人に、感謝を伝えたいと思います。

今回の留学の目的は、3年後期のリサーチセミナーでベラルーシのベラルーシ大学病院に「Institut für Hygiene und Mikrobiologie」で行うことでした。わたしは与えられたテーマは、髄膜炎菌の遺伝子の「Correia element」という箇所についてです。PCRを繰り返す毎日でした。ラボのスタッフはみな親切で、右も左もわからないわたしに基礎の基礎から根気強く教えてくれました。ラボに中国出身のドクターがいて、月餅を食べる春節をお祝いしたことが印象に残っています。月餅はドイツ人の味覚にはあまり合わなかったようで、「かおる好きなら全部食べて」と言われました。

リサーチのあいまに、実習する機会を与えていただきました。小児感染症病棟は、呼び名がStation MOROとあって、わたしの名字と同じでした。そのせいではないと思いますが、手が空いたときに授業をしてくれた

りと、とてもよく面倒を見ていただきました。日本ではあまり見かけない嚢胞性線維症や、ライム病、髄膜炎菌髄膜炎の子供が入院しているのを見ました。が、やはり肺炎の子供が多かったです。核医学でも実習をすることができました。ベラルーシ大学病院にはサイクロトロンがあり、PETでつかうFDGやヨード124などを作ることもできます。サイクロトロンの見学もさせていただきました。放射性物質を扱うために、厳重に管理されていて、わたしはなかなか入っていいものかとドキドキでした。臨床以外に、研究目的でもつかわれているようで、採血もしました。日本では看護師の仕事ですが、ドイツでは学生か、医師の仕事だそうです。たくさん失敗しましたが、先生は、「採血は経験がすべてだ。日本でもできるだけ経験を積み重ねてほしい。」と励ましてくれました。

平日はリサーチや実習で忙しかったのですが、週末は友人に車で連れて行ってもらったり、自分たちで計画を立てて列車で行ったりと、日帰り旅行を楽しみました。初め

てクロスカントリースキーをしたローン、クリスマスマーケットで有名なニュルンベルク、日本人観光客の歴史を感じたローテンブルグ、住みやすそうな都市ミュンヘン、世界遺産にも登録された歴史ある美しいバンベルグ：真冬だったため、とても寒く、天気が良いこともめったになかったのですが、どの街もそれぞれにとても美しく、印象に残っています。

今回の留学で、シールトから続くドイツと日本の交流の一部となったと思うと、感慨深く、歴史の重みを感じます。先日から続いている、東日本大震災のことも、ベラルーシから心配してくれて、こういう個人間の関係が、国際的な支援につながるっていくのかも想像しれないな、と考えました。

最後にになりましたが、このような機会を与えてくださった小澤先生、ライナー先生をはじめ、素晴らしいホスピタリティでむかえてくれたベラルーシの先生方、友人たち、アドバイスを下さった楠本さん、先輩方、そして支えてくれた家族と友人に、感謝を伝えたいと思います。

今回の留学の目的は、3年後期のリサーチセミナーでベラルーシのベラルーシ大学病院に「Institut für Hygiene und Mikrobiologie」で行うことでした。わたしは与えられたテーマは、髄膜炎菌の遺伝子の「Correia element」という箇所についてです。PCRを繰り返す毎日でした。ラボのスタッフはみな親切で、右も左もわからないわたしに基礎の基礎から根気強く教えてくれました。ラボに中国出身のドクターがいて、月餅を食べる春節をお祝いしたことが印象に残っています。月餅はドイツ人の味覚にはあまり合わなかったようで、「かおる好きなら全部食べて」と言われました。

最後にになりましたが、このような機会を与えてくださった小澤先生、ライナー先生をはじめ、素晴らしいホスピタリティでむかえてくれたベラルーシの先生方、友人たち、アドバイスを下さった楠本さん、先輩方、そして支えてくれた家族と友人に、感謝を伝えたいと思います。

今回の留学の目的は、3年後期のリサーチセミナーでベラルーシのベラルーシ大学病院に「Institut für Hygiene und Mikrobiologie」で行うことでした。わたしは与えられたテーマは、髄膜炎菌の遺伝子の「Correia element」という箇所についてです。PCRを繰り返す毎日でした。ラボのスタッフはみな親切で、右も左もわからないわたしに基礎の基礎から根気強く教えてくれました。ラボに中国出身のドクターがいて、月餅を食べる春節をお祝いしたことが印象に残っています。月餅はドイツ人の味覚にはあまり合わなかったようで、「かおる好きなら全部食べて」と言われました。

リサーチのあいまに、実習する機会を与えていただきました。小児感染症病棟は、呼び名がStation MOROとあって、わたしの名字と同じでした。そのせいではないと思いますが、手が空いたときに授業をしてくれた

りと、とてもよく面倒を見ていただきました。日本ではあまり見かけない嚢胞性線維症や、ライム病、髄膜炎菌髄膜炎の子供が入院しているのを見ました。が、やはり肺炎の子供が多かったです。核医学でも実習をすることができました。ベラルーシ大学病院にはサイクロトロンがあり、PETでつかうFDGやヨード124などを作ることもできます。サイクロトロンの見学もさせていただきました。放射性物質を扱うために、厳重に管理されていて、わたしはなかなか入っていいものかとドキドキでした。臨床以外に、研究目的でもつかわれているようで、採血もしました。日本では看護師の仕事ですが、ドイツでは学生か、医師の仕事だそうです。たくさん失敗しましたが、先生は、「採血は経験がすべてだ。日本でもできるだけ経験を積み重ねてほしい。」と励ましてくれました。

平日はリサーチや実習で忙しかったのですが、週末は友人に車で連れて行ってもらったり、自分たちで計画を立てて列車で行ったりと、日帰り旅行を楽しみました。初め

てクロスカントリースキーをしたローン、クリスマスマーケットで有名なニュルンベルク、日本人観光客の歴史を感じたローテンブルグ、住みやすそうな都市ミュンヘン、世界遺産にも登録された歴史ある美しいバンベルグ：真冬だったため、とても寒く、天気が良いこともめったになかったのですが、どの街もそれぞれにとても美しく、印象に残っています。

今回の留学で、シールトから続くドイツと日本の交流の一部となったと思うと、感慨深く、歴史の重みを感じます。先日から続いている、東日本大震災のことも、ベラルーシから心配してくれて、こういう個人間の関係が、国際的な支援につながるっていくのかも想像しれないな、と考えました。

最後にになりましたが、このような機会を与えてくださった小澤先生、ライナー先生をはじめ、素晴らしいホスピタリティでむかえてくれたベラルーシの先生方、友人たち、アドバイスを下さった楠本さん、先輩方、そして支えてくれた家族と友人に、感謝を伝えたいと思います。

今回の留学の目的は、3年後期のリサーチセミナーでベラルーシのベラルーシ大学病院に「Institut für Hygiene und Mikrobiologie」で行うことでした。わたしは与えられたテーマは、髄膜炎菌の遺伝子の「Correia element」という箇所についてです。PCRを繰り返す毎日でした。ラボのスタッフはみな親切で、右も左もわからないわたしに基礎の基礎から根気強く教えてくれました。ラボに中国出身のドクターがいて、月餅を食べる春節をお祝いしたことが印象に残っています。月餅はドイツ人の味覚にはあまり合わなかったようで、「かおる好きなら全部食べて」と言われました。

最後にになりましたが、このような機会を与えてくださった小澤先生、ライナー先生をはじめ、素晴らしいホスピタリティでむかえてくれたベラルーシの先生方、友人たち、アドバイスを下さった楠本さん、先輩方、そして支えてくれた家族と友人に、感謝を伝えたいと思います。

今回の留学の目的は、3年後期のリサーチセミナーでベラルーシのベラルーシ大学病院に「Institut für Hygiene und Mikrobiologie」で行うことでした。わたしは与えられたテーマは、髄膜炎菌の遺伝子の「Correia element」という箇所についてです。PCRを繰り返す毎日でした。ラボのスタッフはみな親切で、右も左もわからないわたしに基礎の基礎から根気強く教えてくれました。ラボに中国出身のドクターがいて、月餅を食べる春節をお祝いしたことが印象に残っています。月餅はドイツ人の味覚にはあまり合わなかったようで、「かおる好きなら全部食べて」と言われました。

リサーチのあいまに、実習する機会を与えていただきました。小児感染症病棟は、呼び名がStation MOROとあって、わたしの名字と同じでした。そのせいではないと思いますが、手が空いたときに授業をしてくれた

りと、とてもよく面倒を見ていただきました。日本ではあまり見かけない嚢胞性線維症や、ライム病、髄膜炎菌髄膜炎の子供が入院しているのを見ました。が、やはり肺炎の子供が多かったです。核医学でも実習をすることができました。ベラルーシ大学病院にはサイクロトロンがあり、PETでつかうFDGやヨード124などを作ることもできます。サイクロトロンの見学もさせていただきました。放射性物質を扱うために、厳重に管理されていて、わたしはなかなか入っていいものかとドキドキでした。臨床以外に、研究目的でもつかわれているようで、採血もしました。日本では看護師の仕事ですが、ドイツでは学生か、医師の仕事だそうです。たくさん失敗しましたが、先生は、「採血は経験がすべてだ。日本でもできるだけ経験を積み重ねてほしい。」と励ましてくれました。

平日はリサーチや実習で忙しかったのですが、週末は友人に車で連れて行ってもらったり、自分たちで計画を立てて列車で行ったりと、日帰り旅行を楽しみました。初め

てクロスカントリースキーをしたローン、クリスマスマーケットで有名なニュルンベルク、日本人観光客の歴史を感じたローテンブルグ、住みやすそうな都市ミュンヘン、世界遺産にも登録された歴史ある美しいバンベルグ：真冬だったため、とても寒く、天気が良いこともめったになかったのですが、どの街もそれぞれにとても美しく、印象に残っています。

今回の留学で、シールトから続くドイツと日本の交流の一部となったと思うと、感慨深く、歴史の重みを感じます。先日から続いている、東日本大震災のことも、ベラルーシから心配してくれて、こういう個人間の関係が、国際的な支援につながるっていくのかも想像しれないな、と考えました。

最後にになりましたが、このような機会を与えてくださった小澤先生、ライナー先生をはじめ、素晴らしいホスピタリティでむかえてくれたベラルーシの先生方、友人たち、アドバイスを下さった楠本さん、先輩方、そして支えてくれた家族と友人に、感謝を伝えたいと思います。

今回の留学の目的は、3年後期のリサーチセミナーでベラルーシのベラルーシ大学病院に「Institut für Hygiene und Mikrobiologie」で行うことでした。わたしは与えられたテーマは、髄膜炎菌の遺伝子の「Correia element」という箇所についてです。PCRを繰り返す毎日でした。ラボのスタッフはみな親切で、右も左もわからないわたしに基礎の基礎から根気強く教えてくれました。ラボに中国出身のドクターがいて、月餅を食べる春節をお祝いしたことが印象に残っています。月餅はドイツ人の味覚にはあまり合わなかったようで、「かおる好きなら全部食べて」と言われました。

最後にになりましたが、このような機会を与えてくださった小澤先生、ライナー先生をはじめ、素晴らしいホスピタリティでむかえてくれたベラルーシの先生方、友人たち、アドバイスを下さった楠本さん、先輩方、そして支えてくれた家族と友人に、感謝を伝えたいと思います。

今回の留学の目的は、3年後期のリサーチセミナーでベラルーシのベラルーシ大学病院に「Institut für Hygiene und Mikrobiologie」で行うことでした。わたしは与えられたテーマは、髄膜炎菌の遺伝子の「Correia element」という箇所についてです。PCRを繰り返す毎日でした。ラボのスタッフはみな親切で、右も左もわからないわたしに基礎の基礎から根気強く教えてくれました。ラボに中国出身のドクターがいて、月餅を食べる春節をお祝いしたことが印象に残っています。月餅はドイツ人の味覚にはあまり合わなかったようで、「かおる好きなら全部食べて」と言われました。

リサーチのあいまに、実習する機会を与えていただきました。小児感染症病棟は、呼び名がStation MOROとあって、わたしの名字と同じでした。そのせいではないと思いますが、手が空いたときに授業をしてくれた

りと、とてもよく面倒を見ていただきました。日本ではあまり見かけない嚢胞性線維症や、ライム病、髄膜炎菌髄膜炎の子供が入院しているのを見ました。が、やはり肺炎の子供が多かったです。核医学でも実習をすることができました。ベラルーシ大学病院にはサイクロトロンがあり、PETでつかうFDGやヨード124などを作ることもできます。サイクロトロンの見学もさせていただきました。放射性物質を扱うために、厳重に管理されていて、わたしはなかなか入っていいものかとドキドキでした。臨床以外に、研究目的でもつかわれているようで、採血もしました。日本では看護師の仕事ですが、ドイツでは学生か、医師の仕事だそうです。たくさん失敗しましたが、先生は、「採血は経験がすべてだ。日本でもできるだけ経験を積み重ねてほしい。」と励ましてくれました。

平日はリサーチや実習で忙しかったのですが、週末は友人に車で連れて行ってもらったり、自分たちで計画を立てて列車で行ったりと、日帰り旅行を楽しみました。初め

てクロスカントリースキーをしたローン、クリスマスマーケットで有名なニュルンベルク、日本人観光客の歴史を感じたローテンブルグ、住みやすそうな都市ミュンヘン、世界遺産にも登録された歴史ある美しいバンベルグ：真冬だったため、とても寒く、天気が良いこともめったになかったのですが、どの街もそれぞれにとても美しく、印象に残っています。

今回の留学で、シールトから続くドイツと日本の交流の一部となったと思うと、感慨深く、歴史の重みを感じます。先日から続いている、東日本大震災のことも、ベラルーシから心配してくれて、こういう個人間の関係が、国際的な支援につながるっていくのかも想像しれないな、と考えました。

最後にになりましたが、このような機会を与えてくださった小澤先生、ライナー先生をはじめ、素晴らしいホスピタリティでむかえてくれたベラルーシの先生方、友人たち、アドバイスを下さった楠本さん、先輩方、そして支えてくれた家族と友人に、感謝を伝えたいと思います。

今回の留学の目的は、3年後期のリサーチセミナーでベラルーシのベラルーシ大学病院に「Institut für Hygiene und Mikrobiologie」で行うことでした。わたしは与えられたテーマは、髄膜炎菌の遺伝子の「Correia element」という箇所についてです。PCRを繰り返す毎日でした。ラボのスタッフはみな親切で、右も左もわからないわたしに基礎の基礎から根気強く教えてくれました。ラボに中国出身のドクターがいて、月餅を食べる春節をお祝いしたことが印象に残っています。月餅はドイツ人の味覚にはあまり合わなかったようで、「かおる好きなら全部食べて」と言われました。

サークル紹介



陸上部

こんにちは。長崎大学医学部陸上部です。皆さんは陸上というどのようなイメージを思い浮かべますか？走るのが大変そうとか、ただ走るだけというの、面白くないイメージを持ってはいませんか？ たしかに陸上は基本的に走ることにしかありません。フィールド競技の練習に精を出す部員もいますが、ほとんどはトラック競技を専門としています。そして、週3日の練習のほとんどは走ることに費やします。走ってばかり、というところの皆さんは中学生・高校生時代の体育の持久走の時間を思い出してはいませんか？特に長距離が専門の部員の練習はそのような感じですが、しかし、練習を重ねると、ただ走るだけというところが、実はとても奥が深いことなると気づきます。練習で走るときには、顎を引くこと、背すじを伸ばすこと、腕を振ること、腰の位置が低くならないようにすること、ピッチ、足の接地の仕方など、本当に多くのことに注意します。さらに大会の時には他の競技者との駆け引きも重要になってきます。このように、走ることにいうのは非常に難しいことなのです。他にも陸上には魅力があります。陸上では

ほとんどの種目が個人競技なので、自分の力がはっきりとわかります。一生懸命練習をすればタイムは縮んでいきますし、練習をサボってしまえばタイムは遅くなってしまいます。また、練習がきつければきつほど、終わった後に大きな爽快感を味わうことができます。そして、きつい練習を積んだ末、自己ベストを更新できた時には素直にうれしく思うことができます。また、手軽に練習できることも魅力です。陸上はシューズさえあればいつでも一人でできます。実際、大会の前になると多くの部員が自主的に練習をしています。空いた時間を見つけて、お金をかけず手軽にできるのも陸上の大きな魅力です。ここまでは陸上の魅力を中心に書きましたが、部活としての医学部陸上部にも多くの魅力があります！



サークル紹介

水泳部

こんにちは。長崎大学医学部水泳部です。医学部水泳部の歴史は古く、紆余曲折を経ながらも50年以上の歴史を有する部活です。現在部員は約40名で、男女比がちょうど半々くらいのもとも和気藹々とした部活です。

◆どこで活動しているの??

夏場は長崎大学文芸キャンパスにある教養プールで、冬場は主に松山町の長崎市民総合プールで活動しています。夏場は冷たい水がとても気持ちよく、冬場は温水プールなのでとても快適に練習できます。特に松山町の長崎市民総合プールは全国規模の大会も開くことができるほどの設備が整ったプールです。

◆初心者でも大丈夫??

大丈夫です!現部員の中でも初心者で大学に入ってから水泳を始めた人も多数います。そういった部員もめきめき上達して、大会でもなかなかの成績を取っています。入部してしばらくは、めだかコースという泳法を学ぶコースが設けられ、上級生がコーチとなって手取り足取り徹底指導します。その指導によって全員が4泳法を体得していきます。また、泳力ごとにきめ細やかなコース分けがされており、西医で入賞を目指すコースから、

1年生から6年生までの医学科生・保健学科生が全員出場することができます。個人競技だから盛り上がりませんか。大会の最後にはリーダーがあり、選抜メンバーチームが他大学チームとタイムを競い合います。全員が一丸となって応援し、良い結果が出ると皆の歓声が爆発します。

◆シエーブアップにもなりますか??

水泳は全身をフルに使うスポーツですので、効率良くシエーブアップすることが出来ます。そして体力づくりには持って来いです。水泳はよく、有酸素運動と無酸素運動の中間のスポーツともいわれます。そのおかげで、ほかのどのスポーツよりも効率よく脂肪を燃焼させることができます☆

◆大会には参加しているのですか??

毎年4月に行われる九州山口医科学学生体育大会、8月に行われる西日本医科学学生総合体育大会・西日本コメディカル学生水泳競技大会など、多数の大会に参加しています。

◆水泳以外の活動はあるのですか??

名前こそ医学部水泳部ですが、水泳だけをしているわけではありません。楽しいイベントが盛りだくさん!夏には沖繩の海で真っ黒になるまで遊んだり、秋には部員全員で1泊2日の小旅行に出かけたり、冬にはカキ焼きツアー、スキーツアーに行ったりと、ここには書ききれないほどの楽しい思い出を作っています。解剖が終わった2年生を労う会や、卒業生を送る会、九山の球技大会、OBの先生との飲み会など1年中イベントは充実しています!!



入部希望の方は下記のアドレスまでメールをください!!
皆さんの入部をお待ちしております。
主将 3年 高平良太郎
stay.away.623@docomo.ne.jp

サークル紹介

軟式テニス部

こんにちは。軟式テニス部です。まず軟式テニスですが、前衛と後衛2人1組でゴム製のボールを相手のコートに返し続けるスポーツです。個人の技術もですがそれ以上に2人の信頼関係が必要なので、友情的なスポーツです。

◆私達は現在男女約50人で活動しています。

練習日は男子が月・火・木・土曜、女子が月・火・木曜です。練習は男女一緒にしていて、和気あいあい、かつ日々切磋琢磨しています。

軟式テニスの大会は団体戦だけでなく個人戦があるので全員が試合に出られます。なので初心者でも大会に出られ、日頃の練習の成果を試合で発揮することができます。

◆実際に初心者ですが、去年の全医体団体戦では男女ともに優勝しました!!



他部活以外でもよく一緒に遊んでいて仲がいいです。実際「写真部」「東方神起の会」「ジブリの会」「AKB 48の会」「たこ焼きパーティー」など数々の会が発足していたり、変な部ではありません。仲がいいんです。「全医体優勝」という、あの感動をもう一度味わうために、まだ味わったことのない1年生のために、「2連覇」目指して頑張っています。今年もたくさんのお新人が入部してくれて、新しい仲間が部員一同大喜びです。これから一緒に頑張ってくださいませ!

進級状況

1年生117名中114名、2年生114名中111名、3年生99名中98名、4年生106名中106名、5年生112名中112名が進級した。
今年度の留年者は7名、休学者は3名、退学者0名であった。



【お詫びと訂正】

ぐびろが丘 第2号 3面に掲載いたしました「第62回西日本医科学学生総合体育大会結果」において、剣道男子個人で優勝された園田さんのお名前に誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。
(誤) 園田素人 → (正) 園田素史

平成22年度 (第22回) ポンペ賞受賞者

成績優秀者 (学業成績 上位3位)

体育系野外活動貢献者



たかたにあ ゆみ
高谷亜由子

みやざき かずひと
宮崎 和人

おおくほ ゆう
大久保 祐

そのだ もとし
園田 素史

うっしーへの追悼



学内某所にうっしーが亡くなっているのが発見され、この度追悼記事を書くに至りました。授業中に教室に入ってきてイスで寝ていたり、満にはまりこんで寝ていたり、生協のプリンターの上で寝ていたり、たまに木に登ったり、普段から想像できないほど機敏に動いたり...長大医学部生の愛を身に受け、また私たちも授業の台間、その姿に癒されていました。
OB・OGの先生方の中にも彼のことを知っている方も多くいらっしゃると思い、報告させていただきます。

《学生の声 in 目安箱》

なぜだか人気のこのコーナー！またまた掲載させていただきました！
今回は特に下級生にとって役立つ情報が載っているかも……！？

@ポリクリってどんな感じなんですか？

E：答え役が自分しかいないので皆の疑問をまとめて答えます！

ポリクリは基本的に病院見学です。また、科ごとに講義を受けたり、手術を見学したりします。また患者さんに問診を取ったりもできます。

Ho：先生達からくる質問とかがって難しいんですか？

E：先生によっては難しい質問もきますね。

T：いままでの勉強が役に立ちますか？（まあぶっちゃけあまり覚えてないですけど）

Hi：立ちそうにないけどね…。

Ho：でも授業中にこれポリクリで聞くからなって言う先生もいるよね。

E：覚えてれば役に立つと思います。ただポリクリ中も試験前とは違ったいろんな勉強をする時間があると思うので、どんどん新たに知識を習得するつもりでやってみたらいいと思います。

Hi：病院でいちばん怖い人って誰ですか？

E：先生方は優しいです！

S：ポリクリ中にしたらアウトなことって何ですか？

E：無断欠席は非常に印象がよくないので休む際は連絡いれましょうね。

N：先輩は何をやらかしましたか？

E：居眠りです！キリッ（←すみません）

A：班のメンバーって重要ですよね？

Y：空気の読める人がいいなあ…いや、空気を読もうとする気持ちがあればまだいい。

S：誰かそういう人いるの？

Hi：彼はこういうときに空気読めないからね…。

Ni：彼とか（笑）

E：メンバーはものすごく重要です。人間関係には特に気をつけてください。

T：こいつはもうダメだとおもったらどうしたらいいですか？

E：医育センターにいい臨床心理士さんがいらっしやいます！！

Ho：五島とか少人数でいくから余計大変そうですね…。

Hi：あいつと一緒にいたら俺とか帰るよ。マジで。

A：俺お祓い行っちゃったよ…。

T：俺も来年行きます…。

E：…それぞれ已むに已まれぬ事情があるようです。

Hi：早く帰ろうと思えば帰れるんですか？

E：大体の科は5時までに帰れます。長い手術を見学していたり、夕方にカンファや勉強会がある科は遅くなることがあります。

T：ポリクリで何が手に入りますか？

E：それぞれの科についての知識はもちろん、いろんなところでコミュニケーション能力を鍛えられると思います。また、長大病院のそれぞれの科の雰囲気わかります。今後の将来を決める重要な実習なので、しっかり受けた方がいいと思います。また卒業生の話では、ポリクリで学んだ知識はよく定着するので意外と国試対策にも役立つようですよ！
以上、ポリクリに関してお答えしました！

@勧誘について全体的にどう思いますか？

A：個人的な意見ですけど、少し疑問を感じる部分があります。

Hi：ああ、僕とか。

T：まあ、それはそうとして…Aさんのにはどんな所に疑問を感じますか？

A：自分が番号を知らせた覚えのない部活からいきなり電話がかかってくるのは怖いんですね。

S：確かにそんな感じはしたけど電話がないとそもそもまず勧誘できないよね。

E：ホームページでもいいけど、絶対それじゃこないしね。

N：この勧誘があるから長崎医科体育大学としてやっていけるんや！

A：誰が得するんだそれ…。

Y：生協パーティーでの勧誘だけで50年存続してる部活もあるよ。

まあ、生協パーティー終わった時点でも知らない人も多いけど、それでも入るからね。

A：活動自体がパフォーマンスになったりする場合もありますからね。

Ho：じゃあ正直1年生がどう考えてるかをアンケートをとってみますか。

@CBTについて詳しく知りたいです。

Hi：CBTって何の略だっけ。

N：クエスチョンバンクテスト。

E：それQじゃねーか。

A：CBTはComputer Based Test。5年生の病院実習前にコンピュータを使った試験で4年間の学習内容の定着を確認するものです。

T：どれくらい勉強したらいいんですかね。

S：早い人は9月に始めてたよ。

E：え、俺3日前なんだけど…。

N：勇者っすね。

Y：※良い子はマネしないでください！

S：それはさすがに運がよかったとしか言いようがない。

Ho：周りが始めた頃に始めるぐらいでちょうどいいですよ。まああとは一泊中パソコンが向かう体力さえあれば問題ないです。

@OSCEっていうのは何ですか？

S：診察の実技試験です。5種類の診察と医療面接を行います。

T：何が大変なんですか？

A：やっぱり外科ですね。練習に専用の器具を使うんだけど、それがシミュレーター室の予約が取れなくてねえ…。

Ho：本番でも清潔にしないといけないから動作を慎重にしないといけないもんねえ。

E：あとは医療面接も大変だよ。事前に考えてた通りに進められなかったり、時間も考えなきゃいけないし。

メディア部ではこのような意見や今回の記事に対する感想を随時受け付けております！たったの一言でもかまいません！
ぜひ医育支援センター前の目安箱に投函、もしくはryojun-do@med.nagasaki-u.ac.jpまでメールお願いします！（文責：江原）

編集後記

年に三回という限られた回数で発行ですが、長崎外の同窓生の先輩方からも反響があり、我々のやる気にも繋がっております。この場を借りて感謝の意を示したいと思います。今回は対談部分も増量してみました。全体としての内容ももう少し学生らしさを押し出せるのではないかと部員一同画策しております！長先生の皆さん、たった一度の医学生生活、新聞作って楽しむのもいいと思いますよ！
本田徳鷹

今回も一部編集に携わらせて頂きました次期編集長？の山本です。「マス」とはともや言えないメディア部ですが、それだけに己の器にあわせた規模と内容でぼちぼちと活動を続けていこうと思っておりますので、今後とも宜しくお願いいたします。コンセプトは「日常」です。
山本直毅

今回から、対話に大量のメンバーが加入してくれてうれしい限りです！ただ、メンバーの高齢化が進行しているので、下級生で興味をお持ちのみなさん!!ぜひ見学にきませんか??やさしい先輩がいっぱいいますよ！待ってます！
平野仁士

「ぐびろが丘」を手にとったいただきありがとうございます。今回は下の学年の参考になればと思います。後もこういった企画をやってもらいたい！ということがあるば遠慮無くお知らせください！
江原大輔

こんにちは。ポンペ編集委員の、4年生の川床健司と小嶋翔子です。

ポンペ編集委員は、教授をはじめとする先生方と学生の私達で構成され、長大医学部の同窓会誌を作っています。

さらに、学生の私達はこの「ぐびろが丘」の編集にも携わっています。

ぐびろが丘は年に3回発行され、学生生活や行事などを載せています。つまり、学生中心の新聞なんです!!皆さんに楽しく読んでもらうため、もっといいものにしていきたいので、私達を見かけた要望やアイデアをどんどん言ってください☆
川床健司・小嶋翔子